

くぐくぐく新聞

111号

発行日 平成十六年六月一日
発行者 仙台市若林区荒町一三〇
幸五郎まちづくり研究所
電話 〇二二-一六六-二三三三
一部十円 年会費二千円

宮城高齢者協同組合の 副理事長になる

副理事長になる

五月は総会、総会の連続でおそらく、皆さんもお忙しかつた事でしょう。女房も荒町の町内会の副会長と会計をしているので、パソコンとエラメックしながら、一ヶ月位かかったようです。私自身は住まい(甲倉)の方の町内会長をしています。人手が無くて会計迄一人でやっています。何とか帳尻があつて、決算書が出来ました。総会をやる場所がないので、自宅を片づけて我が家でもやりました。九人しか集まりませんでした。来ない人はどう思っているのでしょうか。正直云って腹が立ちます。人にまかせておいて住民は無責任と言いたいです。まあまあおつてもしょうがないと自分一人でなくさめていきます。それはそれとして、数年前、なんのキッカケか忘れましたが、高齢者協同組合の組合にお付き合ひで入りました。その組合が荒町の商店街の事務所に同居するようになり、商店街の組合員として加入もするし、イベントにも協力するなど、すっかり仲良くなりました。組合の事務所では、パソコン教室、カラオケ教室も開かれ、町の顔となりました。その組合の理事長の富田さんとは、その関係から友達となり、彼も町内のマンションに住み、いつのまにか飲みともだちになりました。彼から、昨年の末から私にこの組合の理事長になってくれと再三言われ続けられて来ました。なるつもりが無いので本気に聞いていませんでしたが、五月になって名簿を持って来て理事とつ事になっていました。そんなにいつのなら理事位は引き受けようという気になりました。それが、一週間前になつ

たら、本当に理事長になれという。総会の前日迄朝晩つめよられやむなく副理事長とつ事で引き受ける事にしました。

その総会に出席しましたが、組合は赤字で大変な組合です。富田理事長が組合員から、つるしあげられたいへんでしたが、何とかしのいで原案通り総会が終りました。総会の後にすぐに理事会がありました。もう一人、私と同じ副理事長になった名取の女性は「ついつつ総会では、怖くてやれませんが」とぼしていました。閉会の言葉は幸五郎でした。私はついさっきの理事会の雰囲気そのまま伝え、反対派の方々にはぜひ協力してもらおうように率直にお話をしました。熱心に意見をいってくれる人はそれだけ組合のことを思っているのです。帰りエレベーターの中でそんな方とつしよになったので、ニツク笑って頭を下げました。それにしても平組合員から、いっぺんに副理事長にさせられてしまいました。それもこれも高齢者協同組合が荒町の商店街振興組合と仲良く仕事が出来ることが幸五郎の大きな役目です。翌日、早速、同居している商店街の事務所までちよつとしたトラブルがありました。その中に入つて、まあまあとつりなしをしました。一つ肩書きをつけたら又新しい肩書がついて来ました。(無償の愛)をモットーにしている幸五郎の宿命でしょうか。

六月九日。二回目の仕事だが理事会に出席しました。女性が半分、高齢の組員だが平均年齢は六十歳位の方が多い。佐々木陽逸理事長の司会で整然とすめられた。幸五郎は副理事長として会議がスムーズに行くようにシヨクをとばして雰囲気固くならないように配慮した。

最後のしめはもうひとりの副理事長さんとなったが、その前にと、ある男性理事から私の決意を聞きたいと云われた。私も一瞬緊張してしまつたが「単なる任意組合ではないので誠心誠意職務を果たし、今までの情性を廃して、新しい風を吹きこみたい」とお答えしました。

理事さんは私にとってほとんど初対面でしたがそれぞれ人生のキャリアを経験されてこれら立派な方ばかりで、質問の仕方それに対する答え方、今まで幸五郎の体験した会議の仕方とはまるっきり違つたり方なので、勉強になりました。おかげさまで又新しい出会いが沢山ふえ、私の人生の別の方向が生まれ始めた様に感じました。

浅野知事とつしよに

宮城高齢協の副理事長になつて最初の大仕事は、全国労働協同組合の全国大会の総会で挨拶をしてくれという事でした。六月の四日。秋保温泉岩沼屋ホテルに全国から三日間にわたつて七百人も人が集まりました。三千万円もホテルにお金を払つたそうです。

それはどうでもいい事ですが、早速大変な仕事が始まつて来ました。でも幸五郎にとっては名誉なことです。控え室で待つていたら、宮城県農協の親分の庄子喜豊さんが来ました。初対面でしたが、女房からは同郷の人であると話聞いていました。名刺の交換をして話して見たら、女房とは学生時代バス通学でよく顔を見ていて、ひそかに思ひをよせていたという話になりました。私に横取りされてしまったといっていました。エロの日本代表の女性もいました。しんがり、私と同じ有名な浅野知事が来ました。何といつても宮

城を代表する顔でしたが、来るなりソファにお尻をどーんとぶんぞりかえつて見せ、皆に「や」とあいさつをしていました。浅野さんは、やんちゃなお兄さんといつ感じの人です。浅野さんとは、史郎さん、幸五郎さんと呼び合つ仲間、荒町新鮮組の組員でもあります。幸五郎新聞を十円で買つてもらいました。

総会では浅野知事はじめ、しんがりの幸五郎をふくめて九人の人が挨拶をしました。皆が笑つたのは、浅野知事と百姓の竹内さんと私幸五郎の三人でした。さすが浅野さんはうまい。仕事おこしの団体でしたので自分が大学を出て、厚生省で初めて仕事が出来たのがとてもうれしかったといつ思い出しました。

幸五郎は新聞記者になれず幸五郎新聞をつくつて話をしてきました。新聞とは、犬が人に噛み付くのではなく、人間が犬に噛み付くとニツスになるといつ話と荒町の星空コンサートは一人も賛成者がいなかった。皆さんの反対をしいで十八年になるとか、キャッチコピーと新聞と文章にこだわつてまちおこしている話。ちんどんやの話で皆さんに大変うけてしまつた。

コピーでは皆さんに握手されました。会場にいた機関紙の記者からインタビューされ、写真も取られ、新聞に載ることになりました。幸五郎はどうしても

受けを欲しがります、でも九人もの人の来賓の挨拶のしんがり、面白くなければと、全国から来た人に話しのおみやげと思つて緊張つてやりました。うけたよつですね。

朗読奉仕の会の人と

仲良くなる

幸五郎の今の仕事は、お店番である。一日何人もの人がやつて来る。物だけ買つてさつさと帰つていく人もいるが、「こちらから声をかけると、結構のつてくる人もいらつしやる。そんなある日、ご婦人に声をかけたら、朗読の奉仕をやっている方でした。福祉プラザの部屋を無料で借りて、目の見えない人に市政だよりなどを読んでテープに吹き込み、これを配布する仕事をしている団体で、もちろんボランティアです。こんな事をやっている方がいるとはまったく知りませんでした。私はラジオ人間でNHKの深夜放送が大好き。特に加賀美幸子さんや室町澄子さんの声のファンです。私も今まで講演を二百回しました。声でお話をする事に特に興味があります。そんな出会いから、コンサートで音楽と詩の朗読を組み合わせたら面白いのではないかと幸五郎は早速ひらめいてしまった。この話を朗読の会に話を持ち込みましたら、早速OKしてもらいました。そして会の会長さんが、お店に挨拶に行われました。美人でとてもすてきな声の持ち主で、ころがるようにお話をする方でした。どんなコンサートになるかわかりませんが朗読とクラシックとの掛け合わせが七月二日に実現しそうです。ぜひ皆さんも来て見て下さい。それにしても皆さん声を出す、そして人の話を聞く、最近少なくなつてきましたね。

ひびき愛コンサート、 聴いて、歌つて、 感動していただきます

七月二日。福祉プラザで、星

空コンサートのプレイベントとして、「ひびき愛コンサート」をします。このコンサートは三つの柱でやります。一つは仙台フィルのメンバーの弦楽四重奏です。仙台フィルのバイオリンの太友君の友情出演です。彼も荒町のまちおこしの大ファンです。二つ目は朗読奉仕会の皆さんのご協力での朗読とクラシック音楽の「フレイシヨン」をします。ワクワクする企画です。会場の皆さんにも聞いて、そして歌詞を見ながら歌つていただきます。三つ目は荒町出身の作曲家福井文彦氏をたたえるコンサートです。福井さんは私も見ていただいた福井文弥医院の息子さんです。われらのテナー藤原義江の伴奏をして世界一周したり、学校の校歌の作曲を何百曲も作った人です。私も店の前を大きいカバンをかかえて歩いてきたのを覚えています。五月に息子さんにあたる福井邦彦さんと仙台ホテルでお会いしました。お父さんにそっくりでした。荒町小、仙台一高、宮城三女高の校歌、行進曲が福井さんの作曲です。この歌を皆さんに歌ってもらう事にしました。特に有名な三女高の合唱団に出演してもらいたくて柏木の横山さん(三女高OG)に橋渡しをお願いして昨年ひびきついで再び百五十人の大合唱団にも、なんと、なんと友情出演してもらつたことになりました。

区役所内で

幸五郎ドナツタ

私の店の向側にある市民センターの駐車場を毎日眺め仕事をしている。昨年、館長が新しく変わったら、言葉は良くないが管理が厳しくなつて市民センターを利用する人しか、使えなくなつた。当たり前のことだが、永年まちおこしをやつて来た幸五郎にとっては何となく心に落ちないものがある。そもそもここは、今でいうハローワークがあった。それが、が移転する

事になりその跡地を何とか商店街の活性化に役立てて欲しいと、商店街が運動した結果、十年間のしぼりで学校用地として国から仙台市が買い取つた物である。その後区役所に管理がゆだねられ今日に至っている。そもそも出発点であった商店街活性化のためという錦の旗は色あせてしまった。何とかならないか、幸五郎は考えつづけている。せめて休日だけは、商店街に開放して欲しいと、とりあえず年末年始だけ、二二年間あけてもらった。私がかぎの開け閉めをして無事何事もトラブルなく市民に利用してもらつた。

さて次は、休館日も開放してもらおうと思ひ、商店街からの要望書を持って去る六月七日、区役所のまちづくり推進課に行き、課長さんとあつた。いままでまちづくりの補助金コンペでこの課長さんとやりあひを何度もしているの、相性はよくないな。ぜ理事長がこないで相談役の私に来たのか、商店街の意思でないと疑われた。別件で星空コンサートのビニール看板を駐車場に張らせてもらつたよう電話で申し入れておいたが、この事と合わせて、出雲さんは信用にならなうと言ひ放つた。両件とも何度も借りていて前例があり、うまく運用され、ちゃんと実績もある。書類を前にして貸すとも貸さないとも云つていないが、いわゆる役所主義のお上意識をちらつかせている。私はテーブルをたたいて大きい声で激怒。広い室内に聞こえよがしにさわいってしまったのである。もうおれも七十三歳だ、大きい声、意見は言わねば通らなくなつた。こんな、暴力団みたいな幸五郎の暴言には、当然いい返事はこない。結果は、貸さないということになった。理由は、二十四時間、夜中も管理せよと言つたことだ。この駐車場に布団を敷いて寝泊まりして管理するなら良いといふ事である。まちおこしにここまでせよと言つた区役所を皆さんは、どう思いますか。幸五郎の

まちづくりはまた、暗いトンネルの中に入つてしまった。

市長さんから平成七年、まちおこしで第一号の市民金メダルもらつた人間だ。区の職員に人氣がなくなつていい、まちがよくならねば…。幸五郎は区役所から何をいわれてもいいが、市民が良くなれば、市民からほめてもらえれば、私は納得出来る。市民の皆さんが私の味方である。

荒町には靈気がある

店に時々来るWさん(高校の国語の先生)。彼は阿含宗の信者さんです。毎年六月に荒町の土地浄霊の法要をしてもらつている。今年で四回目になる。町の人に声をかけるのだが、誰も出てくれない。阿含宗の人が約二十人、白装束黒袴のいでたちで荒町GMOセンターを借りて熱心にお祈りしてもらつた。皆さんの荒町を思う熱意に幸五郎は涙が出るほど嬉しかった。お祈りが終わつてから挨拶をした。今から十年ほど前、東北放送の安田アナウンサーのインタビューに答えて「荒町には靈気がある。』と、言ったことがある。土地には魂といふものがあると私は信じています。目に見えない物がこの荒町にも存在している。今、その靈気に祈りを通して良い流になるように皆さんに拜んでもらつたことに感謝したい。」とお話しました。この土地の靈気をみんなにも理解して欲しい。今、荒町に新しい風が吹いてきているように私には見えません。

五月のキャッチコピー

- ・ 二人の恋の終着駅は
- ・ チャペルだった
- ・ がんばらない
- ・ 浮気に時効は無い